

地域での信頼確立に向けた取り組み [高齢]

地域交流の場としての施設の開放 ～カフェ・ギャラリーの取り組み～

地域と施設を結び交流の場としてカフェとギャラリーを開くことで、広く地域の方々に当施設を知っていただき、気軽に足を運んでいただける施設を目標に取り組んだ。来所者の方には、ギャラリーで作品を鑑賞され、カフェで安らいでいただくことで、地域の方同士との交流、入居者との交流の場として関心を持っていただけている。

兵庫県

社会福祉法人

千鳥会

〒656-2131 兵庫県淡路市育波558-2

TEL：0799-84-1717 FAX：0799-84-0029

○法人設立日年／平成4年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計：4施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：
特別養護老人ホーム…2、短期入所生活介護…2、
養護老人ホーム…1、在宅介護支援センター…1、
デイサービス…3、グループホーム…1、訪問介
護事業所…1、小規模多機能型居宅介護事業…1、
居宅介護支援事業…2、高齢者住宅等安心確保事
業…1、被災高齢者自立生活支援事業…1

○法人の理念・経営方針

- 千鳥会理念 心と心
- 1. 福祉はいつでも全ての人のために
 - 1. 個人の尊厳の保持
 - 1. 地域に貢献できる事業の提供
 - 1. 社会資源の効果的な利用で自己実現を目指す
 - 1. 専門性を高める教育・研修の充実
- 千鳥会の基本方針
- 1. 地域福祉に関する機能や役割を担います
 - 1. 利用者に信頼されるよう高品質のサービスを提供します
 - 1. 利用者の主体的参加が得られるサービスメニューの展開と実施を目指します

○取り組みの法人での位置づけ等

地域と施設を結び交流の場づくりとして取り組んでいる

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

特別養護老人ホーム ゆうらぎ、養護老人ホーム 北淡荘、ゆうらぎデイサービスセンター、ゆうらぎ居宅介護支援事業所、ゆうらぎ訪問介護ステーション

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム 長期50名・短期10名
養護老人ホーム 168名
デイサービスセンター 24名

○活動内容

- ◇活動開始年：平成19年6月
- ◇活動の対象者：
地域の高齢者、住民、利用者
- ◇活動の頻度・時間：
・カフェは月24日、1日4時間
・ギャラリーは毎日9時～18時
・展示交換は毎月初日

活動実施の背景、実施にいたった理由

社会福祉法人「千鳥会」の理念の一つとして「地域に貢献できる事業の提供」を掲げている。

特別養護老人ホーム「ゆうらぎ」、養護老人ホーム「北淡荘」は平成19年3月に開設したまだ新しい施設である。開設当時、近隣には当法人の施設以外にも多くの高齢者関係の施設があり、「ゆうらぎ」、「北淡荘」と言っても地域の方にとって馴染みの薄い状況にあった。そこで、広く地域の方々に当施設を知っていただき、気軽に足を運んでいただける施設としてのパブリックスペースづくりを目標に取り組んだ。

当施設ご利用の必要性が生じてから施設見学にお越しただくのではなく、日頃の何気ない交流の中で施設のスペースをご利用いただき、職員と楽しく過ごしていただく。その中に入居者の方も仲間入りすることで、生活の様子も分かっていただけ、家庭におられた時の馴染みの関係が維持できる。

この様な、地域と施設を結び交流の場づくりを計画し、様々な試みを実施した。年代を超えた交流ができる様な文化的交流や、娯楽や趣味を中心とした交流等々を多面的に計画することで、地域の方に施設へ足を運んでいただき、少しでも地域と施設が一体となる様にと考え取り組んだ。

実施内容

地域交流の拠点としてカフェ（喫茶）とギャラリーを開いている。

1階の地域交流スペースの一角に「バ（婆）ジー（爺）ズ（達）カフェ」を平成20年6月に開設した。カウンター席、テーブル席合わせて20席である。天気の良い日はパラソル席5席が外に設けられ、喫煙席ともなる。15種類のメニューは全て100円で提供している。お客様は日々増加し、現在1日50～60人達し、その中で外来者は10人程度である。週6日で9～11時、13～15時の計4時間の営業をしている。

ギャラリーは平成20年11月より、廊下の壁面を利用して展示している。玄関を入ってすぐの位置にあり、廊下幅約5m、壁面は7m左右両面にある。展示作品は絵画、書道、造形、

写真等、一見して展示交換したことが分かるよう変化をつけ、月初めに交換している。作品は淡路市在住の方や、入居者の方、職員等馴染みの方や、著名な方に依頼し展示させていただいている。最初は当方からの依頼が殆どであったが、作品展をご覧になって出展をご希望される方がでてきたので、展示計画が立てやすくなった。今回の展示で11回目を迎え、定着してきた。PR活動は、近隣へのポスター掲示（25枚）を行っている。新聞にも幾度となく取り上げられたことや口コミで、観覧者は増えている。ギャラリーに来られ、その奥にある喫茶でくつろいでいただく。そこには、入居者やご家族も来られており、会話が弾む場となっている。

地域の会合や、ボランティアの方の休憩の場としても利用される様になり、その用途は拡大し、地域交流の安らぎの場を提供している。

.....**活動効果**（利用者や職員、地域などの反応、影響）.....

(1) 入居者の反応

正月元旦の朝、ギャラリーには近隣の小学1～6年生計150人の書き初めを展示した。観覧者からは昔を思い出し自分は字が上手だった下手だったと会話が弾む。「孫の書き初めなど家に居ても見る事が無かった。ここに貼ってもらって初めて見た。何回も見れる。近所の子もあるよ。」と喜ばれていた。

他には、展示物のちぎり絵を見て、「ちぎり絵は私もしたことがあるのよ。簡単なものなら又やってみようか。」と意欲的に、実際にミニチュア家屋展を参考にしてお城（本人曰く姫路城）等を製作し作品展を行った方もいる。単に鑑賞するだけでなく、創作活動への意欲づけとなっている。

(2) 出展者の反応

友人の方と一緒に作品を見に来られ、「こうして広い所に飾って貰うと一段ときれいに見えるし、なんと言っても多数の人に見て貰えて喜んで頂けるのが嬉しい！」と感想を話されている。出展していただいている方がお見えになった時には、ギャラリーにいる入所者に紹介することになっている。そこで、製作方法や工夫点等の会話が弾み、手芸教室の講師を引き受けてくださる等、更なる機会へと発展する。

(3) 地域住民の反応

ギャラリー開設前はカフェを利用される方が少

なかったが、最近では地域の方も大勢カフェに来られるようになった。ギャラリーへの関心も高まった結果だと考える。

地域住民の方がカフェやギャラリーに来所された時、入居者の方がカラオケをされていると、一緒に参加され楽しめる方もいる。地域住民と入居者との交流のきっかけとなる場になっている。

.....**今後の課題及び展開**.....

カフェやギャラリーは地域交流の窓口であって目標ではない。しかし、更なる充実のためには、喫茶担当者を2人にし、毎日開店できるようにし、開店時間を9～16時に延長するなど、地域の方に広く利用していただきたいと考える。

ギャラリーは、日時を決めて出展者との会話の時間を設定することにより交流が深められる。ギャラリーの作品鑑賞から得られた創作意欲をバネに、今まで不定期ながら実施してきた折り紙や、紙すき、陶芸に加えて季節に合った作品創りを毎月企画したい。

前述の様に講師をしていただける方や、材料を提供していただける方も増えつつあるので大いに活用させていただいて、生きがいをもって楽しく生活できる場づくりに取り組みたい。

.....**主な経費や財源及び人員等**.....

(年間あたり)

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
通信費	120,000円	他施設繰入金収入	690,000円
展示用レール	210,000円		
消耗品費	360,000円		
<合計>	690,000円	<合計>	690,000円

・取り組みに係わった職員数 1名
(職種等：サービスコーディネーター)

